伊勢物語

芥川 ―品詞分解―

昔、男ありけり。女の、え得まじかりける、を、年を経て、よばひわたりけるを、からうじて盗み出で、て、いと暗きに来けり。

芥川と いふ川を率て行きければ、草の上に置きたりける露を、「かれは何ぞ。」と なむ男に問ひける。

行く先多く、夜も更けに ければ、鬼はさへいと 雨も いたう降りければ、いみじう鳴り、雨も 降りぬべし。

あばらなる蔵に、女をば奥に 押し入れて、男、弓、胡籙を負ひて戸口に 立てり。

はや夜も明けなむと 思ひに、一口に 食ひてけり。「あな や。」と 言ひけれど、神鳴る 騒ぎに、え聞かざりけり。

明けゆくに、見れば、率て来し 女も なし。足ずりを して 泣けども、かひなし。

白玉か何ぞと 人の問ひしと

き　露と（格助・引用）答へ（ハ下二・用）て（接助・単接）消え（ヤ下二・用）な（強・未）まし（不可願・体）ものを（終助・詠嘆）

これ（代）は（係助・提示）、二条后の（格助・主格）、いとこの（格助・体修）女御の（格助・体修）御

もと　に（格助・場所）、つかうまつる（ラ四・体（謙）語り手→いとこの女御）やう　に（格助・状態）ゐ（ワ上一・用）

給へ（ハ四・已（尊）語り手→二条后）り（完・用）ける（過・体）を（接助・逆接）、かたち　の（格助・主格）いと（副）

めでたく（形ク・用）おはし（サ変・用（尊）語り手→二条后）け（過・已）れ　ば（接助・順理）、盗み（マ四・用）て（接助・単接）負ひ（ハ四・用）

て（接助・単接）出で（ダ下二・用）たり（完・用）ける（過・体）を（格助・単接）、御兄人　堀河の大臣、太郎国経

の大納言、まだ（副）下臈にて（格助・状態）内裏へ（格助・方向）参り（ラ四・用（謙）語り手→内裏）

給ふ（ハ四・体（尊）語り手→基経・国経）に（接助・単接）、いみじう（形シク・用（ウ音））泣く（カ四・体）人　ある（ラ変・体）を（格助・対象）

聞きつけ（カ下二・用）て（接助・単接）、それ（代）を（格助・対象）、とどめ（マ下二・用）て（接助・単接）取り返し（サ四・用）給う（ハ四・用（ウ音）（尊）語り手→基経・国経）

て（完・用）けり（過・終）。かく（副）鬼と（格助・引用）は（係助・強意）いふ（ハ四・体）

なり（断・用）けり（過・終）。まだ（副）いと（副）若う（形ク・用（ウ音））て（接助・単接）、后の（格助・主格）ただに（形動ナリ・用）

おはし（サ変・用（尊）語り手→二条后）ける（過・体）とき（格助・引用）と（係助・疑問）や。